

堺のヒト・モノ・世界をつなぐ

堺IPC

SAKAI CITY INDUSTRIAL PROMOTION CENTER
www.sakai-ipc.jp

PRESS



●特集

堺のものづくり力で、 医療の世界へ

向陽エンジニアリング株式会社 / 株式会社樋原製作所 / エミリエ医療システム株式会社

●モノダン×モノジョ 8

パートナーと二人三脚で
会社の変革をめざす。

森田加工所 森田美穂さん

●さかいモノ語り 11

岩盤浴の下の力持ち「新温浴ヒーター」
株式会社岡崎

2017.1
VOL.

42



case
01

機構パーツメーカーとして
高い独自性、信頼性を追求

それまでの向陽技研製品の貿易窓口業務を転換し、機構パーツの企画・設計開発を行う“新生”向陽エンジニアリングとして2014年にスタート。オリジナリティあふれる技術開発力が高く評価され、昨年には「堺市ものづくり新事業チャレンジ支援補助金」の交付が認定されたほか、「シマノものづくり特別賞」を受賞している。

「Tロックギア」で医療分野へ

向陽エンジニアリング株式会社 代表取締役 山下 直伸

超高齢社会にあって、急速に拡大する医療機器市場。しかし、海外製品に多く占められているのが現状です。より高度で繊細なものづくりが求められる医療機器事業にこそ、日本のものづくり企業の活躍を期待したいと、国も「医工連携」を推進しています。今回は、自社独自の技術を活かして医療・福祉分野への参入を果たした3社に話をうかがいました。

「Tロックギア」の高い信頼性で医療・福祉分野へアプローチ

「日本で、日本のものづくりをしたい」という強い思いを持ち、向陽技研株式会社から独立する形で第二創業を図ったのは、向陽エンジニアリング株式会社の山下直伸社長です。専務を務めていた向陽技研では、技術者としてソファや座椅子のリクライニングや回転の機構パーツを開発・設計していました。

「リクライニングの機構を備えた高級ソファはヨーロッパでの需要が高く、向陽技研の製品の約8〜9割をドイツやイタリアなどの海外に輸出していました。成熟した事業領域で、もはやパーツも進化しようがなく、何か新しいことに挑戦したくなつたんです」と山下社長。

山下社長自らが開発したくさび原理を用いたロック機構は、中のツメをくさびにして強度を高めたもので、金具の小

型軽量化に成功。ひいてはコストダウンにつながり、量産化しやすいというメリットを備えたものでした。

さらに片方にしかロックのかからない従来のラチェット機構と異なり、両方にロックがかかるためガタが少なく誤動作もしません。関節を確実に留めるこのTロックギアを活かせるのは何かと考えた時に、山下社長は高い信頼性の要求される医療や福祉機器にこそ用途が広がるのではという思いに至ったといいます。

初訪問のわずか9ヶ月後、 デンタルチェアの新モデルに搭載

医療・福祉機器メーカーをターゲットに定め、飛び込みで営業に回るなか、山下社長は歯科用ユニット・チェアなどの製造・販売する企業で、運命的ともいえる一人の技術者と出会いました。デンタルチェアの新製品を開発中で、まさにヘッドレストのパーツ機構で試行錯誤をされているところだったとか。

「初めて訪問した日に、すぐに紹介され、Tロックギアに興味を持っていただきましたが、新製品の発表が9ヶ月後に迫っていて、今回は無理かということになりました。しかし後日に、『今からでも間に合うのなら採用する』という判断をいただき、私も『寝ないでやりま』と答えました(笑)」。

初訪問が2015年10月。そこから

設計を詰めて、翌年4月に金型を発注。6月に量産品を納めて、7月の「日本デンタルショー2016東京」での発表に間に合わせました。ガタの全くない、静かで滑らかな動きのヘッドレストの実現に高評価を得て、今後その他の商品への展開も期待されるそうです。

「強度確認などのテスト検証で、一度でもエラーが出ていたら間に合わなかったところ。並行して代替技術の開発も進められていたので、本当にプレッシャーでした」と山下社長。一度でも安全性・信頼性の損なわれるものづくりをした時はメーカーとして終わりだ、ということに常に肝に銘じてきた山下社長の技術者としてのプライドが、今回の成功につながったといえるのでしょうか。

社会にまだない価値あるものを メーカーとして提供したい

「弊社が独自に開発した機構パーツが、大手メーカーで採用されたことは、第二創業をスタートさせたばかりの我々にはありがたく、大きな実績となりました。今後のさまざまな展開への期待が高まっているところです。例えば、スムーズに角度や高さが変えられるといった機能は、在宅医療や在宅介護の現場でニーズがあると思っています」と山下社長。すでに巨大ピラミッド構造のできあがっている自動車産業などへのベンチャー企

業の新規参入は大変困難だけれども、医療・福祉分野は「まだ世の中にないもの」を提案できれば参入のチャンスはまだまだあると考えられています。

機構パーツの開発だけ、技術だけを売ってくれという話を持ちかけられることもあるそうですが、山下社長があくまでもこだわるのはメーカーとしてのものづくりだと語っています。「最適の材料、工法を選び、最適な協力会社を得てアッセンブリで出荷するメーカーでありたい。いつかは、向陽グループの創業の地・堺に工場を建てて、海外にも販路を広げたいですね」と夢を語っていました。

オーストラリア大陸をバイクで縦断、 第二創業のスタートを迎えて気持ち新たに。

向陽エンジニアリングの第二創業前に、オーストラリア大陸をアデレードからダーウィンまでバイクで縦断してきたという山下社長。「大学の卒業旅行では、パースからシドニーまで横断したんです」。これから社会に飛び込んでいく自身を鼓舞したように、この旅で新事業の展開に向けて思いを高められたのか、社内の目のつくところにエアーズロックの写真が置かれています。



向陽エンジニアリング株式会社



◀「Tロックギア」を活用した自社製品群。水に強い機構の開発で医療や介護の現場での汎用性を高めようと樹脂製への展開を図っている。

代表者名/代表取締役 山下直伸
本社/堺市北区長曾根町130-42-123 (S-Cube)
TEL/072-257-8000
設立/1980年設立
資本金/4,800万円
従業員数/5名
事業内容/くさび原理を用いたロック機構部品の設計開発ならびに製造販売、各種企画製品の設計開発ならびに製造販売、3Dプリント出力ならびに設計開発支援事業
<http://www.koyoeng.biz/>



case 02

機能とコストの両面から
最適の「価値」を提案

いち早くOEM生産からの脱却を図って自社製品の開発に取り組み始めた樋原製作所。さらに、持ち込まれた課題を、自社独自の企画力と技術力で解決する「VE提案型製造業」を掲げている。求められる機能を確実に、最も低いコスト(Cost)で実現することこそが、製品の価値(Value)だという考えだ。

独自の発想で手術器具を開発

株式会社樋原製作所 代表取締役社長 樋原壽一

下請けからの脱却を図って
自社製品の開発へ

発動機や船舶などを生産・販売する大手メーカーのもと、船舶用ギヤポンプ、油圧バルブなどの製造専門工場として、1960年に創業した株式会社樋原製作所。集塵機用ロータリーバルブや、立体駐車場などに使われる減速機のギヤードモーター部品などの組込技術を得意とするOEM生産に携わってききましたが、オイルショックや円高不況などの時代の波を受けて下請け企業からの脱却を図り、コスト削減につながる薄肉加工といった自社技術を磨いてきた企業です。その技術力が高く評価され、半導体製造関連機器などを製造・販売するメーカーと共同で、多関節ロボットの部品開発などを多く手がけています。

樋原壽一社長は「他社がやりたがらない、開発期間が短く、高精度が求められる案件に率先して取り組むことで、当社の技術力は高められてきたと考えています。しかし、リーマンショックなどで外部環境が悪化すると、せっかく開発したもののづくり技術も海外に流出するなど、当社もその影響から免れることができません。自社製品の開発に取り組むべきだと決意したのです」と語っています。そこで着目したのが、医療・福祉産業への進出でした。

一人の医師の発した言葉から これまでにない持針器を開発

2015年に開催された医療総合展示会「メディカルジャパン」で、同社が出品した心臓外科用持針器は、多くの医療関係者に注目されました。

これまでの鉚型やピンセット型の持針器は、施術者が手首を回して90度方向にしか運針できず、そのために施術者自身が身体をよじつたり、つま先立ちしたりするなど、負担が大きかったといえます。そこで同社が開発したのは、垂直方向にも動かせる機構を組み込んだ持針器です。

「きっかけは東京大学の本村昇医師が講演でこういった手術器具が欲しいと話されたことでした。補助金を受けて取り組んだ企業もあつたようですが失敗し、大阪商工会議所を介して弊社に声がかかったのです」と樋原社長。翌月には早速アイデアを持って東大を訪ね、そこでの意見交換を踏まえて、2ヶ月後に試作品を完成。その2ヶ月後の人工臓器学会で展示したところ、そうそうたる大学病院の外科医で構成される評価委員会から高い評価を得ています。

開発のポイントは「先端部の小さな機構に細い針を掴んで垂直に動かすために必要な約10kgの把持力を持たせることでした」と吉原隆技術部長。実用化に向けては、針の大きさを先端部を変えたり、臓器に直接ふれる部分を使い

捨てたりできるように、取り替え可能なディスプレイ化をプラスチックで実現できないかということや、さらなる軽量化が課題として残されています。吉原部長はこうした課題をクリアしたうえで、さらに施術者の使いやすさや内視鏡手術での患者の負担軽減を追求して、グリップ部のオーダーメイドや、軸部の直径を9mmに抑えることを目指すと語っています。

点滴ポールスタンドを ワンタッチで車椅子に装着

樋原製作所では、医療関連ではこの他にも、歯科技工粉末飛散防止ケースや、点滴をかけるフック部分がポールの中に収納できる「点滴ポールスタンド」、点滴スタンドを車椅子に連結する「点滴ポールキャッチャー」を自社開発しています。なかでも「点滴ポールキャッチャー」は、これまで大変面倒だった車椅子への点滴スタンドの固定作業を改善し、ワンタッチレバーで簡単に連結できるといえるもので、専用のポールスタンドを購入せずとも、既存のものがそのまま使える点も、コスト面での優位性を誇っています。

「既成のネットワークができあがっているなかに、中小企業が新規で参入するのはなかなか困難なことですが、オリジナルの発想や技術力で課題解決型のものづく

りができればチャンスはあります。ただ、高い安全性、信頼性の求められる医療関連は多額の開発資金がかかるもの。アメリカでは、ベンチャー企業であっても有望であれば製品化までを支える国のシステムがあると聞きます。今後、『医工連携』を進めるにあたっては、日本でもそうした支援策を拡充していただければと思いますね。私たちも実用化に向けての資金調達のため、パートナー企業探しを始めるところです」と樋原社長。その苦勞をいとわない原動力は「現場の医師や看護師たちに喜ばれること。それが世の中の役に立てることなら、何でもやらせてもらいたいという気持ちを新たに」と語っていました。

「できない」という考えを持たない。 自社の企画力と技術力に誇りと自信

「日本の家電メーカーも次々と縮小され、弊社もその影響を受けましたが、一方で、そうした企業から流出される技術者を招き入れ、指導を受けた結果、短期間で飛躍的に生産性を高めることができました。弊社に持ち込まれた課題についても、私は『できない』という考えを持ちません。どんなに困難でも『どうすれば実現できるだろうか』と何十ステップでも試作を重ねるだけです」と語る樋原社長の言葉に、自社の技術力への揺るぎない自信を感じました。



株式会社樋原製作所



◀付け外しの必要のない「点滴ポールスタンド」は、ポールをつけたまま折りたたむほか、フック部分がポール内に収納できる。ポールを上下する際に手を離しても急落下しない。

代表者名／代表取締役 樋原壽一
本社／堺市南区大庭寺611-3
TEL／072-293-1111
設立／1960年創業 1962年設立
資本金／1,000万円
従業員数／10名
事業内容／介護・医療機器、半導体・液晶製造装置、包装機器の開発・製造、精密機械の試作・開発など
<http://www.hibara.jp/>



|||||
c a s e
03
最短納期、低コストで
強い競争力を発揮

医療機器メーカーの営業で知った現場のニーズに応えるものづくりの楽しさをより深めたいと、2005年に創業。水まわり製品に特化した事業を展開してきた。従来の手洗い装置が主にステンレス製だったものをFRP（繊維強化プラスチック）に変えたように柔軟な発想とコストパフォーマンスの高さで、高い評価を得ている。



手洗い装置のトップシェアへ

エミリエ医療システム株式会社 代表取締役 河井健男

**腰掛けのつもりが16年間
医療機器の営業で人脈を築く**

エミリエ医療システム株式会社の河井健男社長が、医療設備機器メーカーを創業するに至った経緯はユニークなものでした。「実家は刃物メーカーで、もちろん私も家業を継ぐつもりでした。しかし、医療用刃物のほとんどがアメリカやドイツ製なのを知り、堺刃物を医療の世界にも参入させたいと考えたのです」。

まずは医療業界の勉強のために、医療機器メーカーに入社。3年で卒業するつもりが16年間、医療設備関連の営業を担当したといいます。「水まわりの製品の営業が面白く、しかも病院関係者の人脈もできました。現場から聞こえてくる数多くのニーズにものづくりで応えたいという思いを強くしました」と河井社長は語っています。

**医療・介護分野で重要な
水環境に特化した事業を展開**

同社が強みとするのは、医療・介護・食品などの分野で、清潔な水環境にこだわった製品開発です。なかでも、特許を取得している新型手洗いシステム「スパイラルシャワー」は、1mlに約5000個のマイクロバブルや、1mlに約3600万個のナノバブルといった超微細気泡を生成し、それが毛穴の中まで入って汚れや菌をかき出すというもの。高価な殺菌剤を使う必要

医工連携促進事業

堺市内の中小企業からの健康・医療・介護分野への参入に関する相談について、医工連携コーディネーターが応じ、相談内容に適した支援をコーディネートするとともに、そのプロセスに対し『さかい版 伴走支援』によりサポートいたします。

対象となる方

健康・医療・介護の分野へ参入を希望する
(参入している) 堺市の中小企業者

支援の内容

- 研究会の発足・運営
- 健康・医療・介護分野でのビジネスマッチングの促進
- 医療機器開発支援ネットワーク等による開発・事業化支援の実施
- 切れ目のない支援に向けて (定期訪問) (各種支援制度のコーディネート)

【お問合せ・申込先】

公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課
医工連携促進事業担当

〒591-8025堺市北区長曾根町183-5
TEL : 072-255-6700 FAX : 072-255-1185
URL : <http://www.sakai-ipc.jp/>
Email : keiei_shien@sakai-ipc.jp

エミリエ医療システム株式会社



◀ 新型センサー式ソープディスペンサーを備えた、新型手洗いシステム「Spiral Shower」

代表者名／代表取締役 河井健男
本社／堺市堺区宿屋町西2-2-22-210
TEL／072-204-1100
設立／2005年設立
資本金／1,000万円
従業員数／10名
事業内容／医療設備機器の開発
<http://hwm7.wh.qit.ne.jp/emirie/>

がないことや、グリセリンなどを添加することで保湿効果も発揮するというので好評を博しています。

さらに周辺製品として開発されたクロルバック(塩素ビーズ)は、水道水に入れるだけで約1年間、残留塩素濃度を確保。手洗いの水を汚染を防ぐほか、蛇口からの逆汚染も防止する効果が期待されるものです。

創業当初に手がけたソープディスペンサーやアルコールディスペンサーも、従来品に不満を抱く現場の医師や看護師たちのリアルなニーズを踏まえて開発されたものばかり。こうした製品を見るために、わざわざ遠くは関東や東北から出向いて来られる病院関係者もいるそうです。河井社長は「本物のものづくりをしていれば、お客様から来てくださるといこと

ですね」と話しています。

何度も足を運んで得た、現場の課題を解決する提案を

ユーザーの限られる医療業界は市場規模が小さいためか、現場の不満を解消するものづくりがなおざりにされてきたのでは、と河井社長。そうしたニッチな分野だからこそ、中小企業にもチャンスがあると語っています。「採算が読めなくて大手が手をつけないものを、まずは採算度外視でチャレンジしてみる。それが結果的には大きなビジネスにつながると思います」。もちろん、ニーズを引き出すには信頼関係が第一。一朝一夕で築けるものではなく、河井社長から「ともかく現場に足を運んで糸口をつかむこと。そして、つかめ

たら医師や看護師の不満の解消につながる価値ある情報をお土産に訪問を重ねることですね」と具体的なアドバイスがありました。そうした地道な活動の結果、今日、「エミリエ医療システムに任せれば何とかしてくれる」と言われるほどの信頼を得られています。

「昨日の敵は今日の友」エミリエ医療システムの河井社長は、現場のニーズに短期で確実に、そして低コストで応えるために、自社の技術だけで完結しない場合は、競合他社の技術や製品を組み込むことも辞さないと言っていました。得意技術を持ち寄るコラボレーションもまた、中小企業が医療・福祉業界に参入する場合の一つのポイントだといえそうです。



世界に誇れる堺刃物を医療分野でも活躍させたくて

「堺刃物の医療分野への進出」27年前の思いは今も変わらず、いよいよ本格的に動きをスタートさせています。まず、大学病院からの課題が、磁性を帯びていない医療用刃物。強力な磁気を発するMRI装置のそばでは、磁性のある医療用刃物が吸いつけられて飛び、危険なのだとか。磁性を帯びない素材の選定から始めています。また、製品づくりの際に役立つと考え、医療用刃物の研ぎ直しも引き受けています。

堺工業技術研究会 新規会員募集中!!

堺工業技術研究会とは…堺工業技術研究会は昭和31年に堺市内の中小企業が集まり設立された異業種交流団体です。当会では、工場見学を通じた会員相互の交流・情報交換や経営合理化及び技術向上に資する取り組みや、新たな事業展開のための研究会・講演会などの事業を実施しています。新規入会を希望される方は、お気軽にお問合せください。

●対象

堺市内に拠点を有する製造業企業

●活動内容

◆総会講演会・新年講演会／事業活動に資する内容の各種セミナー◆小研究会／会員企業をはじめとした地元企業の工場見学や事業に資する内容の講演会等◆優良施設等見学会／全国の優良企業の工場見学◆周年記念事業／海外企業視察◆施策情報の提供／補助金、ビジネスマッチング、人材育成、優遇制度などの支援施策の情報提供◆会費／月額5,000円

お問合せ

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1 堺工業技術研究会事務局（堺市ものづくり支援課内）
TEL：072-228-7534
FAX：072-228-8816
ホームページ：http://www.kougiken.net/mt/

堺工業技術研究会 平成29年新年講演会

「中小企業の技術を世界に! ~航空宇宙に架けた熱い想い、そして夢の実現へ~」

東大阪の町工場が集まって製作し、平成21年1月に打ち上げに成功した人工衛星「まいど1号」の発起人であり、生みの親とも言われている、株式会社アオキ 取締役会長 青木 豊彦 氏をお招きし、ものづくりに対する熱い想いや、成長産業を見据えた技術開発や経営戦略等について語っていただきます。ぜひともふるってご参加ください。

●開催日時：平成29年1月24日（火）16時～17時30分

●会場：ホテル・アゴラリージェンシー堺 3F ガーデンコート
（堺市堺区戎島町4-45-1）

●講師：株式会社アオキ
取締役会長 青木 豊彦 氏

●定員：80名（先着順）

●受講料：1,000円（会員は無料）

●申込方法：同封のチラシに必要事項を記載のうえ、FAXにてお申し込みください。



平成28年度「堺優良従業員・堺技能功労者表彰式」 —企業・地域経済発展など功績のある137名を表彰—

10月18日（火）、堺市産業振興センターイベントホールにおいて、堺市内の事業所等に勤務する従業員で、特に企業の発展に貢献があった方々をより広く顕彰し勤労意欲の向上に資することを目的とした「堺優良従業員表彰」及び、堺市内で功労顕著な技能者の社会的・経済的地位と技能水準の向上を図ることを目的とした「堺技能功労者表彰」の表彰式が開催されました。両表彰は、毎年、堺市と堺商工会議所が共催で実施しているもので、今年は137名（76事業所）が栄えある表彰を受け、「永年表彰」「功労者表彰」については前田堺商工会議所会頭から、「産業ルネサンス表彰」「堺技能功労者表彰」については竹山堺市長から、それぞれ市長・会頭連名の表彰楯が授与されました。各部門別表彰内訳（順不同・敬称略）は以下のとおりです。

《堺優良従業員表彰》125名

- ◆永年表彰 96名
- ◆功労者表彰 26名 対象：勤続年数を問わず、特に功労があった従業員
- ◆産業ルネサンス表彰 3名

井出 治利 株式会社 クボタ 堺製造所

事績：①品質不良情報システムの構築と改善指導 ②製造部門中堅社員へのトレーニー制度の確立 ③サプライヤー技能コンクールの確立。①では、サプライヤーロス工数を低減し、エンドユーザーの製品満足度を大いに高めた。②では実際にサプライヤーへの改善指導に当たりスキルアップのシステム化を実現。③ではサプライヤー中堅社員の技術力向上に取り組む意識改革を実現し、品質の安定に大きく貢献している。

山本 誠治 株式会社 クボタ 堺製造所

事績：各設備のエネルギー使用量の把握とムダ取り対策の推進、省エネパトロール・省エネ展示会や他社の環境道場を展開。ベンチマーキングによる環境負荷低減対策テーマをリストアップし、設備改善を実施し、エネルギー使用量の削減に貢献した。

改善グループA 株式会社 梅川鉄工所

事績：作業者に実施してきた現場改善講習会（座学）が十分に活かされていない現状から、知識の吸収に留めず実践に活かすため、ライン内・工場内のムダについて改善に取り組み、時間出来高数増加、加工設備の集約化で設備台数を削減、作業用スペースを損なわず通路幅の縮小を実現し、結果次工程作業者の1名減少を実現した。

《堺技能功労者表彰》12名 対象：堺地域の産業振興及び業界全体の振興・発展に貢献している功労顕著な技能者

受賞者：伊藤 浩平（株式会社 NORTH LAND DESIGNS.）片山 真（天神餅）川原 義博（株式会社 川原塗装店）北 誠（株式会社 にしうら）黒澤 哲也（有限会社 黒澤商店）澤村 三郎（澤村萬壽堂）中條 友美（リパティール岡本）中辻 弘（弘武電機工業 株式会社）中埜 行雄（堺ミシン商会）松尾 忠良（ヘアーサロンまつお）向園 隆善（大裕鋼業 株式会社）森下 明彦（日本料理大金樓）

受賞者氏名等、詳細につきましては、堺市ホームページ下記アドレスをご覧ください。
http://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/careerweb/matome_best/hyoshoshiki.html

👑 ものを作る、明日を創る。

モノダン × モノジョ

堺市内で活躍する若手社員「モノダン(ものづくり男子)×モノジョ(ものづくり女子)」を毎号ご紹介します。



パートナーと二人三脚で 会社の変革をめざす。

歯科技工士の専門学校で知り合った森田輝社長と結婚したのが約20年前。二人で歯科技工所を開業していましたが、先代社長の健康問題から森田社長が家業を継ぐことになったタイミングで、技工所を閉じて育児に専念することになったという森田美穂さん。子育ての落ち着いた5年前に、森田加工所に入社しました。「製造工程も何もかもがわからなかったので、まずは現場に入り、一から作業を覚えました」。現在は、品質管理から経理、総務といった事務の一切を担っています。

「歯科技工士の時は、一人で黙々と作り上げることに達成感がありましたが、今は社員

の皆さんと一緒に高品質のものづくりに取り組み、それが社会で役立っているということにやり甲斐を感じます」と語る美穂さんは、従業員に気持ち良く働いてもらえる環境づくりを心がけているそうです。

人生のパートナーである森田社長から経営のパートナーとしての役割も期待され、二人で堺市産業振興センターの「ものづくり経営大学」を受講中です。「会社は今まではいけない、変わらなければ」という意識が強くなりました」。そんな美穂さんは、社長と二人三脚で同社の新しい道を歩き始められたようです。



👤 森田 美穂さん

実家もプラスチックの成型を行うものづくり企業で、父を支える母の姿を小さい頃から見ていたという美穂さん。森田社長が家業を継ぐことを決断した時点で、会社の経営についても伴走者となる覚悟をされたとか。最近、あるロックバンドに夫婦ではまり、二人でライブに通うことが仕事のモチベーションアップにつながっている。



森田加工所

1976年の創業以来、自転車部品メーカーの協力会社として、部品の組立を担ってきた。「QCD (品質、コスト、納期) を重視したものづくり」を身上とし、最近にはさらに生産性を高めるために、堺市産業振興センターの専門家派遣事業を活用し、工程管理などを見直している。今後は、これまでに培ってきた技術力を土台に幅広い産業分野に進出していきたいと考えている。

本社 / 堺市南区豊田 1540
TEL.072-292-9691

次代につなぐ 堺の伝統産業 ③

「堺刃物」

世界中の料理人にとって憧れであり、持っていることがステイタスとなった堺刃物。今や、国内外からの注文に生産が追いつかないほどの人気を誇っています。なぜ、堺刃物がこれほどまでに注目されるのか、その理由を伝統工芸士であり、堺刃物協同組合の田原俊一理事長にうかがいました。

「鍛冶」と「研ぎ」の分業制によって堺刃物の技術が高度に継承。

堺刃物の歴史はるか遠く、仁徳天皇陵など堺に多く点在する古墳が造営された約1600年前、その工事のために住みついた職人たちによって鋏や鋤などの土工具が生産されたのが最初だとされます。時代は進んで16世紀、戦国時代にポルトガル人によって鉄砲やタバコが伝来すると、堺で鉄砲づくりやタバコ包丁づくりが盛んとなり、江戸時代には、堺刃物の評判が全国に広まっていた。全国に刃物の産地はありますが、そのほとんどは両刃包丁。プロの料理人に好まれる切れ味の鋭い片刃包丁が、堺刃物の身上だといえるでしょう。

堺の刃物づくりといえば、「鍛冶」と「研ぎ」の分業制が大きな特徴です。それぞれに特化して技を磨いてきた結果、今日まで優れた堺刃物が継承されてきました。切れ味の良さ、使いやすさ、そして研ぎやすさなどから、近年では海外でも「堺の包丁」という認識が広がり、産地を見たいと堺市を訪ねてくる外国人が増えています。



▲世界中の料理人たちに愛される堺の和包丁。上から「出刃包丁」、「薄刃包丁」、「刺身包丁」



▲ほとんどの料理人が使っているという堺刃物。歪みのない片刃包丁は、使い手が砥石に包丁を当てても均一に刃がつくため研ぎやすい。

業界と行政が一体となって堺刃物の後継者を育成中。

一方、職人の高齢化が進み、後継者の育成が課題となっています。「一子相伝」のように、親から子へ技術が継承されていた仕組みも崩れ、古い師弟制度も馴染まない今日、2015年10月から堺刃物商工業協同組合連合会と、堺市産業振興センターが連携して、「堺刃物職人養成道場」を開講しました。現在は、鍛冶で2人、研ぎで6人の修了生が新米職人となって技術の研鑽を重ねているところです。

そして、海外においては、研ぎ直しなどのメンテナンスができる人材の育成も、堺刃物が長く愛用され続けるために重要だと田原理事長。「10万円の包丁を買って大事に使わないでいるよりは、1万円の包丁を10年、15年と長く、毎日使ってもらってこそその道具。堺刃物は手入れをきちんとすれば、母から娘へ譲り渡せるほど長く使えるものです」と語っています。

私たち一人ひとりがその良さをよく理解し、長く使い続けることこそが、伝統工芸を守り伝えることにつながるのでしょう。

▶世界的に有名な料理教育機関「ル・コルドン・ブルー」のフランス・パリ校に招かれた田原理事長。未来のシェフたちの大歓迎を受けた。



堺刃物協同組合 田原俊一 理事長

取材協力

田原製作所
堺市堺区三宝町2-127
☎072-233-3818

“平成29年 堺刃物まつり”を2月11日（土）、12日（日）の2日間、堺市産業振興センターで開催します。

堺刃物の展示や販売をはじめ、古式鍛錬実演、刃物の製造工程紹介、刃物クリニック、マグロ解体ショー、中華料理研究家の程一彦さんによるトークショーなど多彩な催しをご用意し、皆さまのご来場をお待ちしています。



CHECK!

- 刃物クリニック【包丁・はさみの研ぎ直し（有料）】は、毎年大好評の催しです。対応できる数に限りがあり、先着順となりますのでお早めにお越しください。包丁の銘切り・柄付けの実演も行っています。
- ステージには、堺市立月州中学校吹奏楽部（海外でも活躍中のオレスカバンドを輩出!）が出演します。
- 東北物産、熊本物産の販売も行います。

日 時：平成29年2月11日（土）～12日（日） 午前10時～午後4時
 場 所：堺市産業振興センター（堺市北区長曾根町183-5）
 南海高野線・泉北高速鉄道「中百舌鳥」駅、又は地下鉄御堂筋線「なかもず」駅から約300m
 主 催：堺刃物まつり実行委員会
 費 用：入場無料
 お問い合わせ：堺刃物商工業協同組合連合会 072-233-0118

堺市産業振興センター常設展示場をリニューアル

当センター1階常設展示場をリニューアルオープンしました。

産業支援機関の企業支援情報を集めた「ものサボさかい」、優れた技術や特色のあるものづくり企業の魅力を発信するショーウィンドウ「さかいモノてらす」、企業紹介や各種展示を行う「IPCギャラリー」のほか、当センターの貸室をご利用の際に、ご利用いただける「談話室」「控室」なども整備しました。ぜひご活用ください。



ものサボさかい



さかいモノてらす



IPCギャラリー



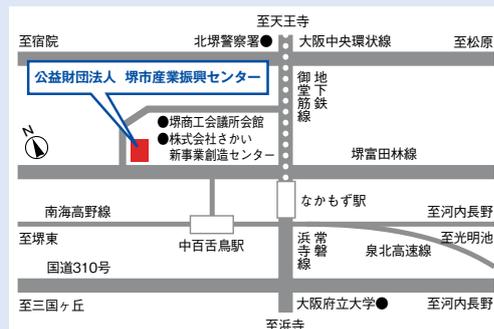
談話室

中小企業を
全力応援

公益財団法人
堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
 TEL.072-255-3311 (代) FAX.072-255-5200
<http://www.sakai-ipc.jp/>



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m※駐車場は、隣接の来客用駐車場（無料）がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。



さ
か
い
mono
モノ
語
り

ホットヨガスタジオへの施工例
床下に「新温浴ヒーター」が施工されたホットヨガスタジオ。
溶岩石からの遠赤外線効果によるデトックス効果も高いと人気。
写真提供：株式会社マグマスバジャパン

岩盤浴の下の力持ち「新温浴ヒーター」

大手スポーツジムのホットヨガスタジオやリラクゼーションサロンのための溶岩浴設備として開発した「床下新温浴ヒーター」。ステンレス製ケースの中には給水管と発熱管があり、そこに富士山の溶岩を敷き詰めて使用します。高温になると発生する蒸気と遠赤外線効果により、肌の潤いを失わせることなく、気持ちのよい汗とともに体内の老廃物を排出する効果が期待されます。

当初は、海外製の床暖房ユニットを流用しましたが構造に不具合があり、協力会社の力を借りながら自社で開発することになりました。開発担当は「電気と水の両方を扱う為の絶縁対策と、メンテナンス性が開発の難点でした。試作を重ねて、現在はメンテナンス時に折り曲げることが

可能なヒーターを採用してます」と語っています。信頼性の高い製品が実現したのは、同社が大切にしている、ものづくりへのチャレンジ精神が生かされた結果と言えるでしょう。



▲ヒーターの1ユニットは1畳ほどの大きさ。施工場所の広さに応じてフレキシブルに組み合わせられる。

株式会社岡崎



岡崎代表と、商品開発部の中村さん

平成元年創業の株式会社岡崎は、装飾性の高い建築金物のほか、規格外の特注サッシ、防火扉、ダクト、生産設備まわりの架台といったステンレスの曲げ加工を必要とする製品の設計・製作を主な事業としています。また、主に食品工場向けの搬送機器であるトップチェーンコンベアも設計・製作・施工。日本酒や飲料品の製造ラインにも多く採用されているとか。

顧客満足を第一に掲げ、厳しい納期にも対応するという岡崎社長の姿勢が、得意先企業の大きな信頼を得て、強い競争力を発揮している企業です。

▶ 同社が得意とするステンレスの曲げ加工や精密溶接技術が活かされたダストボックス。病院・介護施設・食品工場・理美容店などでの採用が期待される。



● 本社 / 堺市南区富蔵3351-1 ☎072-293-9124
http://www.okazakiy.co.jp

